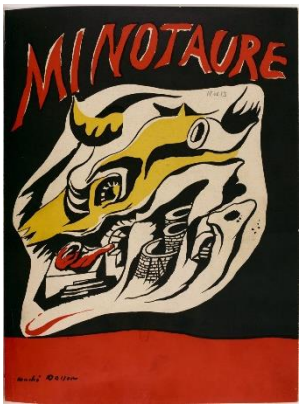
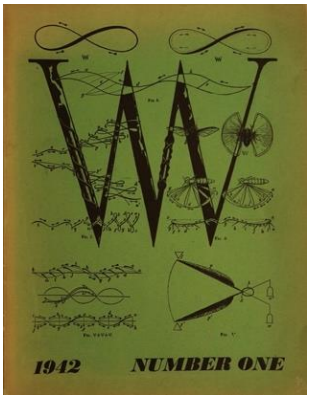
ゼミ展示

Le surréalisme et ses revues

--シュルレアリスムと雑誌--

（2021 年 9 月 21 日～10 月 2 日）





写真：『Minotaure』、『VVV』【京都産業大学図書館所蔵】

主催：京都産業大学ギャラリー

共催：外国語学部 長谷川 晶子ゼミ

ごあいさつ

本展示「シュルレアリスムと雑誌」は京都産業大学外国語学部 長谷川晶子ゼミの履修生が主体となり、開催準備を進めてまいりました。本展示では本学図書館が所蔵するシュルレアリスムの貴重な文芸誌『ミノトール Minotaure』と『トリプル・ヴェー VVV』を中心にこの運動をわかりやすく紹介します。

シュルレアリスムは 20 世紀最大の芸術運動であり、パブロ・ピカソ、アンドレ・ブルトン、サルバドール・ダリ、ルネ・マグリット、マルセル・デュシャンら錚々たる芸術家たちが参加しました。雑誌は時代をアクチュアルに映し出すメディアです。当時発行された雑誌の調査・研究を行うことで、第二次世界大戦中までのシュルレアリストたちの創作活動の展開の概要を知ることができます。

令和 3 年度長谷川晶子ゼミは 3 年生 17 名、4 年生 20 名の合計 37 名から成ります。ゼミ生は京都産業大学ギャラリーと相談しながら展示のプランを作り上げ、解説パネルを制作し、ポスター・チラシのデザインを行い、配布資料を準備しました。これらの活動を通じて 1930 年代～40 年代半ばのシュルレアリスム運動の基礎的な知識を身につけると同時に、展覧会というものを構成する諸要素を全体として理解することを目指しました。

この展示を通してシュルレアリスムに触れていただき、履修生の取り組みを温かく見守っていただければ幸いです。

京都産業大学ギャラリー
京都産業大学外国語学部 長谷川晶子ゼミ

--シュルレアリスムとは--

第一次世界大戦後、1920 年代の初めにフランスの詩人アンドレ・ブルトンらによって始められた文学と芸術の運動、思想のことを指す。1930 年代以降、国際的な拡がりを見せ、1960 年代頃まで継続した。

シュルレアリスム（surréalisme）は「超現実主義」と訳される。シュル（sur-）というフランス語の接頭語は、主に「超える」「離れる」と「強度の」「過剰の」の二つを意味するが、シュルレアリスムでは後者のニュアンスが強い。つまり、平凡にみえる現実の中に過剰なまでに濃い現実「シュルレエル（超現実）」が潜んでいると信じる態度を指す。

シュルレアリストたちは思考の解放、想像力の復権、夢・狂気・不可思議の再検討などを通じて、超現実の姿をあらわにし、現実の見方を変えようとした。芸術作品をつくるよりも、精神の状態や生き方が自由であるかに重きが置かれた。現実の見え方を変え、世界を変えようとするこの精神は、現在まで引き継がれている。

--アンドレ・ブルトンとは--

フランスの詩人。シュルレアリスムの理論的な指導者。

1896 年　2 月 19 日フランス、ノルマンディー地方タンシュブレーに生まれる。第一次世界大戦に精神科のインターンとして従軍。治療にあたる。フロイトの精神分析や当時の心理学に触れる。ルイ・アラゴンらとダダイスムに参加。
1920 年　自動記述の成果を『磁場』として刊行（フィリップ・スーポーとの共著）。
1924 年　『シュルレアリスム宣言・溶ける魚』出版。
1927 年　フランス共産党　入党（〜33 年離党）
1928 年　『ナジャ』出版。
1933 年　『ミノトール』誌に協力。
1938 年　メキシコに滞在。ディエゴ・リベラ、フリーダ・カーロ、ロシアの政治家レオン・トロッキーに出会う。「独立革命芸術のために」をトロッキーと一緒に執筆・発表。

『ナジャ』のブルトン肖像写真
（アンリ・マニュエル撮影）
WIKIPEDIA から転載
(https://fr.wikipedia.org/wiki/)
2021.9.1

1941 年　シュルレアリストたちとともにアメリカへ亡命。途中マルティニーク島に寄港した際、詩人エル・セゼールと出会う。雑誌『トロピック（熱帯)』やセゼールの『帰郷ノート』に感銘を受ける（その後セゼールは『VVV』に積極的に詩を投稿するようになる)。

1942 年　『VVV』創刊。

1944 年　カナダのケベック州、ガスペジー半島へ旅行し、『秘法 17』を執筆する。

1945 年　アメリカのネヴァダ州、ホピ族の居留地を訪問し、『シャルル・フーリエに捧げるオード』を構想（出版は 1947 年)。

1946 年　フランスに帰国。

1947 年　パリで「1947 年のシュルレアリスム」展を企画・開催。

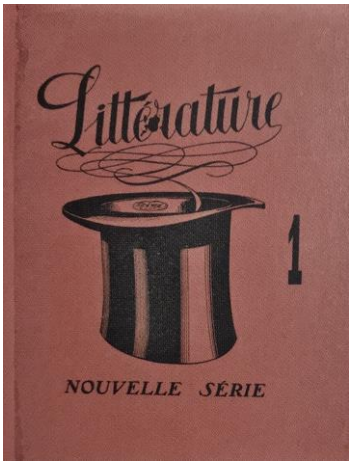
1959 年　パリで「国際シュルレアリスム展（通称 EROS 展)」を企画・開催。

1966 年　死去。

--シュルレアリスムの主要な雑誌--

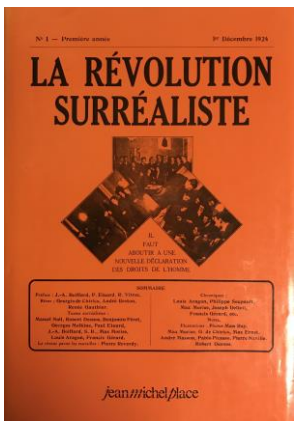
Littérature

『リテラチュール（文学)』はシュルレアリスムの胎動期にあたる 1919 年から 1924 年までに刊行された雑誌で、新しい文学の試みを発表する場となった。若い才能のある作家ルイ・アラゴン、アンドレ・ブルトン、フィリップ・スーポーによって編纂された。1919 年 9 月（第 7 号）には自動記述のテクストが発表された。



Man Ray, Picabia et la revu Littétrature,
Centre Pompidou,
2014 より転載

La révolution surréaliste

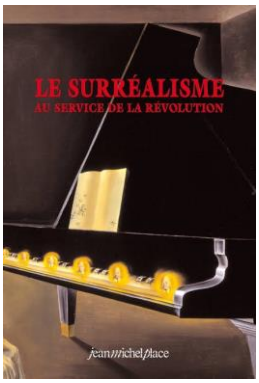


『シュルレアリスム革命』
（復刻版）【個人蔵】

『シュルレアリスム革命』は 1924 年から 29 年にかけて、ブルトン、アラゴンによって刊行されたシュルレアリスム運動の機関誌（全 12 号)。各号にはテーマが設けられており、自動記述や夢の記述、甘美な死骸やコラージュをはじめ、運動初期の実験的な試みを後世に伝える貴重な資料となっている。

Le surréalisme au service de la révolution

『革命に奉仕するシュルレアリスム』は 1930 年から 35 年にかけて刊行されたシュルレアリスムの第二の機関誌である。編集長は主にブルトンが務めた。シュルレアリスムという新しい形の思考によって革命に関わる可能性を探っている。1930 年代初めにシュルレアリストたちが盛んに作ったオブジェが紹介され、それに関する論考が寄せられている。



『革命に奉仕するシュルレアリスム』（復刻版）【個人蔵】

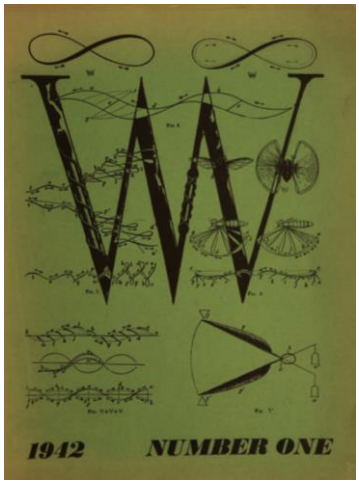
Minotaure

『ミノトール』第 10 号
【京都産業大学図書館所蔵】

『ミノトール』は 1933 年にアルベール・スキラがピカソの協力を得て刊行が実現した文芸雑誌。文芸雑誌とは言っても、アフリカ・ジプチの調査隊を特集するなど、民族学、精神分析、神話学など様々な観点から世界をとらえなおそうとした。ブルトン、ダリ、エリュアール、マン・レイ、エルンスト、マグリットらシュルレアリストのみならず、精神分析のジャック・ラカンやサドを再発見したモーリス・エーヌなども協力した。第 4 号あたりからシュルレアリスムの存在感が増した。1939 年 5 月号をもって終刊した。

VVV

『トリプル・ヴェー』は新大陸に亡命したシュルレアリストたちによってニューヨークで発行された機関誌。アメリカの人の芸術家デイビット・ヘアーとシュルレアリストたち（デュシャン、ブルトン、エルンスト）が共同編集した。内容のみならず形式が実験的である。特に第２―３号は、折り畳んである挿絵を広げさせたり、切り絵をいじらせたりというギミックが多数仕掛けられている。このような大胆な試みは他の雑誌では行われていない。



『VVV』創刊号
【京都産業大学図書館所蔵】

NEON

『ネオン』は 1948 年から 49 年までにフランスで刊行されたシュルレアリスムの機関誌である。主に、サラーヌ・アレクサンドリアン、インドジヒ・ハイスレル、ジャック・エロルド、クロード・タルノーが出版に関わった。4 つの折り畳まれた大きな配給紙に白黒で印刷されている。全部で 5 号まで発行された。

『NEON』EYEMAGAZINE より転載
(http://eyemagazine.com/feature/article/typographic-tango)
2021.09.12

Le surréalisme même

『シュルレアリスム ・メーム』第 2 号
巖谷國士『〈遊ぶ〉シュルレアリスム』、平凡社、2013 より転載

『シュルレアリスム・メーム』は 1956 年から 59 年にかけて全部で 5 号発行されたシュルレアリスムの機関誌。ブルトンが編集を務める。表紙は創刊号をマルセル・デュシャン、第 2 号をピエール・モリニエ、第 3 号をガブリエル・フォン・マックス、第 4 号をハンス・ベルメール、第 5 号をジャン・アルプが担当した。オクタビオ・パスやマグロワール・サン＝トードら中南米を代表する詩人たちも寄稿した。

--雑誌『ミノトール』--

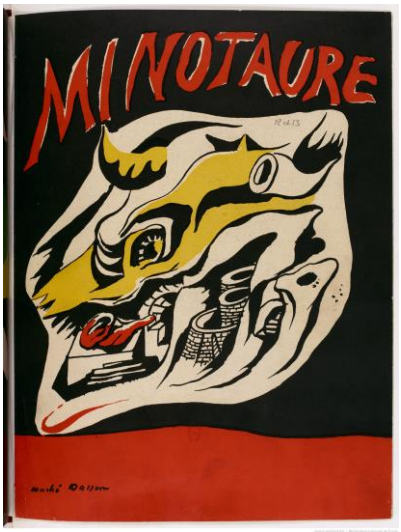
1933 年に責任編集者のアルベール・スキラの前衛美術雑誌を出したいという思いから、ピカソの協力のもとに創刊された文芸雑誌である。創刊当時は美術評論家のテリアードがアートディレクションを務めた。タイトルの『ミノトール』は、ギリシア神話のパシパエーと海神ポセイドンが海から引き上げた白い雄牛との間に生まれた半人半獣の半神ミノタウロス（フランス語でミノトール）からとられている。『ミノトール』は、形の上では第 6 号で廃刊となった『革命に奉仕するシュルレアリスム』を継ぐと言われるが、機関誌として始まったわけではなく、徐々にシュルレアリスムの機関誌に変化していった。全部で 13 号創刊し、1939 年 5 月で終刊した。入手の難しさや著名画家の版画など挿入されていること、さらに当時としては豪華なものであったことから『幻の美術雑誌』とも言われている。

-創刊号-（1933 年 6 月号　表紙：ピカソ）

ピカソの描いたミノタウロスの作品が表紙を飾る。ブルトンの書いたピカソ論も掲載される。ピカソ特集号とも言われる。

-第 3・4 合併号-（1933 年 12 月号）

マン・レイの写真やサルバドール・ダリ、ポール・エリュアールのエッセイなどを掲載し、全体的にシュルレアリスム色が強まっている。



-第 12・13 合併号-

（1939 年 5 月号　表紙：マッソン）

メキシコを特集した号。表紙のマッソンの作品以外に、ブルトンの「メキシコの思い出」の表紙としてディエゴ・リベラの表紙が挿入された。

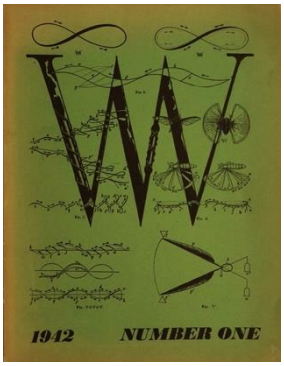
【写真：『Minotaure』京都産業大学図書館所蔵】

--『VVV』誌が誕生した背景--

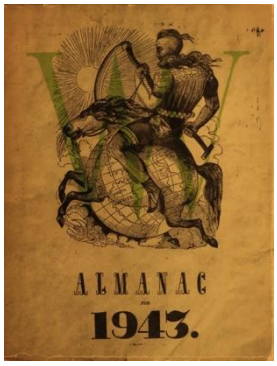
『VVV』誌が誕生した背景 1941 年 8 月、アンドレ・ブルトンによって「VVV」発行のプロジェクトは生まれた。亡命したシュルレアリストたちを紹介する 『ヴュー』誌があったものの、シュルレアリスム独自の観点を示す雑誌がなく、機関誌の出版は急がれていた。これには主に 2 つの理由がある。1 つは『ヴュー』誌がアメリカ人主宰の既存の雑誌であったこと。もう 1 つはシュルレアリスム=ダリという単純化されたイメージが作られていたため、それを修正する必要があったことだ。『ヴュー』誌はニューヨークで 1940 年から 1947 年まで刊行された。アメリカ、ミシシッピ州生まれのチャールズ・ヘンリー・フォードが監修した。『ヴュー』誌はフランスのシュルレアリスト達そして国際色豊かな関係者達を受け入れて、彼らの味方になった。『ヴュー』誌は存続した 6 年の間、絶えずシュルレアリストの画家の作品を掲載し特集集号を組んだ。何でも組み込むアンソロジー的と悪く言われることもあるが、つまり『ヴュー』誌は視点が多様であるという意味であり、これが 『ヴュー』誌が長く存続できた原因であると言われる。

『VVV』誌は 1942 年の第二次世界大戦の最中にニューヨークで最初に発行された。第 2-3 号（1943 年)、第 4 号（1944 年）が出版された。本展覧会ではすべての号を紹介している。アメリカに亡命していたマルセル・デュシャン、アンドレ・ブルトン、マックス・エルンスト、ロベルト・マッタなど多くの芸術家が協力している。『VVV』誌はその特徴としてまず挙げられるのは、視覚だけではなく読者の触覚にも触れるという部分だ。折り畳んである挿絵を広げさせたり、切り抜き絵をいじらせたりといったギミックがある。遊び心が満ちあふれている。このような大胆な試みは他のシュルレアリスムの雑誌でも行われていない。また、シュルレアリスム研究者シェニウ＝ジャンドロンによれば、『VVV』誌は「歌を次々に奏でる」特徴、つまり、シュルレアリスムの詩が数ページに渡って掲載されているという特徴がある。たとえば、発見したばかりのマルティニックの詩人エメ・セゼールの詩を紹介している。加えて、政治的な立場の表明がなされているのもその特徴である。

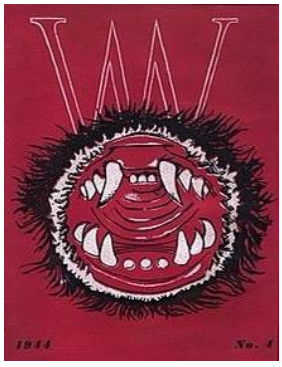
『VVV』誌はアメリカに亡命したシュルレアリストたちが自らの芸術的、政治的、倫理的な立場を表明することのできた例外的な雑誌である。



(1942)



(1943)



(1944)

【写真：『VVV』 京都産業大学図書館所蔵】

【展示リスト】

No.	資料名	Titre	作者（出版社）	年代	寸法（cm）	員数	所蔵
1	『磁場』	Les champs magnétiques	アンドレ・ブルトン、 フィリップ・スーポー	1920	19×14	1	京都産業大学図書館
2	『シュルレアリスム宣言・ 溶ける魚』	Manifeste du surréalisme	アンドレ・ブルトン	1924	19×12	1	京都産業大学図書館
3	『シュルレアリスム宣言・ 溶ける魚』	Manifeste du surréalisme	アンドレ・ブルトン	1929	19×12	1	京都産業大学図書館
4	『ナジャ』	Nadja	アンドレ・ブルトン	1928	19×11.5	1	個人蔵
5	『ナジャ』	Nadja	アンドレ・ブルトン	1964	16.5×11	1	個人蔵
6	『ナジャ』手書きの原稿 ファクシミリ版	Manuscrit de Nadja	アンドレ・ブルトン （フランス国立図書館）	1928 (2019)	35.7×24.5	1	個人蔵
7	『アンドレ・ブルトンの肖像』	Le portrait d'André Breton	ジゼル・フルン	1939	27.4×20.4	1	個人蔵
8	『フォンテーヌ街の アンドレ・ブルトン』	André Breton dans son appartement	アンリ・カルティエ＝ブレッソン	1961	30.2×20.2	1	個人蔵
9	『マン・レイ、ピカビアと 「文学」誌』	Man Ray, Picabia et la revue Littérature	クリスティアン・ブリアン クレマン・シェルー （ポンピドゥー・センター）	2014	25×20	1	個人蔵
10	『シュルレアリスム革命』復刻版	Révolution surréaliste	（ジャン＝ミッシェル・プラス）	1924-29 (1991)	29×20	1	個人蔵
11	『革命に奉仕するシュルレアリスム』 復刻版	Le surréalisme au service de la révolution	（ジャン＝ミッシェル・プラス）	1930-33 (2002)	30×21	1	個人蔵
12	『シュルレアリスム革命』	La révolution surréaliste	（ポンピドゥー・センター）	2002	30×24	1	個人蔵
13	『狂気の愛』	L'Amour fou	アンドレ・ブルトン（ガリマール）	1937	20×14	1	個人蔵
14	『狂気の愛、 写真とシュルレアリスム』	L'Amour fou,photography & surrealism	ロザリンド・クラウス、ジェーン・リヴィ ングストン（アイブヴィル出版）	1985	31×24	1	個人蔵
15	『ミノトール』	Minotaure	（アルベール・スキラ）	1933-39	26×34	2	京都産業大学図書館
16	『ダリ』	Dali	（ポンピドゥー・センター）	2013	28×23.5	1	個人蔵
17	『マグリット AからZまで』	Magritte A bis Z	（ウィーン・アルベルティーナ美術館）	2003	27×20.5	1	個人蔵
18	『ポサダ』復刻版	Posada	ディエゴ・リベラ （メキシカン・フォークウェイズ [Editorial RM]）	1930 (2012)	23.5×34	1	個人蔵
19	『メキシコ』	Mexique	アンドレ・ブルトン他	1939	18×24.5	1	個人蔵
20	『メキシコ、ニューヨーク』	Mexico New-York	アルバレス・ブラボー、カルティエ＝ブ レッソン、ウォーカー・エヴァンス(RM)	2003	35×27.5	1	個人蔵
21	マルセイユ・トランプ　復刻版	Le jeu de Marseille	ヴィクトル・ブローネル、アンドレ・ブル トンなど（アンドレ・ディマンシュ）	1983	6×10	1	個人蔵
22	『トロピック（熱帯）』復刻版	Tropiques	ジャン＝ミッシェル・プラス	1941-45 (1978)	19.5×15	1	個人蔵
23	『トリプル・ヴェー』	VVV	デヴィッド・ヘア、アンドレ・ブルトン、 マルセル・デュシャン	1942-44	22×29	3	京都産業大学図書館
24	『シャルル・フーリエに 捧げるオード』	Ode à Charles Fourier	アンドレ・ブルトン	1947	28×17	1	個人蔵

【参考文献】

本展示の解説文は以下の文献・資料を参考、引用して作成いたしました。

アンドレ・ブルトンの著作・翻訳

・André Breton, *Œuvres complètes*, I-IV, Gallimard, 1988-2008.
・アンドレ・ブルトン『アンドレ・ブルトン集成』第 4 巻、大槻鉄雄・阿部良雄訳、人文書院、1970 年
・アンドレ・ブルトン『アンドレ・ブルトン集成』第 7 巻、粟津則雄訳、人文書院、1971 年
・アンドレ・ブルトン『シュルレアリスムと絵画』瀧口修造・巌谷國士監修、人文書院、1997 年
・アンドレ・ブルトン『秘法 17』入沢康夫訳、人文書院、1993 年
・アンドレ・ブルトン『ナジャ』巌谷國士訳、岩波書店、2003 年
・アンドレ・ブルトン『狂気の愛』海老坂武訳、光文社、2008 年

研究書

・Rosalind Krauss, Jane Livingston, *L'Amour fou, photography&surrealism,* Abbeville Press, 1985.
・アンリ・ベアール『アンドレ・ブルトン伝』、思想社、塚原史・谷昌親訳、1990 年
・ベッカー編『フーリエとブルトン』酒井昌美訳、啓文社、1993 年
・ジャクリーヌ・シェニウ＝ジャンドロン『シュルレアリスム』鈴木雅雄・星埜守之訳、人文書院、1997 年
・鈴木雅雄・真島一郎編『文化解体の想像力』、人文書院、2000 年
・谷川篤『シュルレアリスムのアメリカ』みすず書房、2008 年
・斎藤哲也『零度のシュルレアリスム』水声社、2011 年
・巌谷國士『〈遊ぶ〉シュルレアリスム」、平凡社、2013 年
・ジャクリーヌ・シェニウ＝ジャンドロン『シュルレアリスム、あるいは作動するエニグマ』斎藤哲也・鈴木雅雄・長谷川晶子・永井敦子・谷口亜沙子・中田健太郎訳、水声社、2015 年
・朝吹亮二『アンドレ・ブルトンの詩的世界』慶應大学出版、2015 年
・巌谷國士『マン・レイと女性たち』、平凡社、2021 年

雑誌の特集

・『シュルレアリスムの世界展ーピカソ、ダリ、エルンスト、デルヴォーら「ミノトール」の画家たち』、毎日新聞社、1982 年

・『美術手帖』「シュルレアリスムの 30 年代ー『ミノトール』の作家たち」特集号、美術出版、1982 年
・『アール・ヴィヴァン』第 22 号「特集＝ミノトール 」、みすず書房、1986 年

美術展カタログ
・『シュルレアリスム展ーパリ、ポンピドゥーセンター所蔵作品による』、国立新美術館、2011 年

事典
・『世界大百科事典』平凡社、2007 年
・Michael Richardson, etc., *The International Encyclopedia of Surrealism*, I-III, Bloombury, 2019.

参考にしたインターネット・サイト

【日本語】
東京都写真美術館の「アジェのインスピレーションーひきつがれる精神」展（2017 年）
https://www.topmuseum.jp/contents/exhibition/index-2878.html
横浜美術館の「シュルレアリスムの美術と写真」展（2017 年）
https://yokohama.art.museum/exhibition/index/20171209-494.html
POLA 美術館「シュルレアリスムと絵画ーダリ、エルンストと日本のシュール」展（2019－20 年）
https://www.polamuseum.or.jp/exhibition/20191215s01/

【フランス語】
アンドレ・ブルトンのコレクションや原稿が公開されている HP
（ブルトンの娘オーブが管理）
https://www.andrebreton.fr/
ポンピドゥーセンターの HP
https://www.centrepompidou.fr/
サルバドール・ダリ財団の HP
https://www.salvador-dali.org/
フランス国立美術館の Gallica で公開されている『ミノトール』
https://gallica.bnf.fr/services/engine/search/sru?operation=searchRetrieve&version=1.2&collapsing=disabled&query=%28gallica%20all%20%22Minotaure%22%29%20and%20arkPress%20all%20%22cb343950177_date%22&rk=64378;0#resultat-id-1

【展示に携ってくれたゼミ生】

[ゼミ長]　越智菜々香

[副ゼミ長]　鎌田有美

[ゼミ生]

藤田葵、井上沙弥香、大村道子、岡田美帆、岡本菜々実、九冨李杏、久保樹生、

島田貴仁、竹花悠太朗、谷口路未、寺原今日子、寺原みちる、林理歩子、松本渚乃、

間所千星、森田翔真、康乘翔太、山森有紗、乾世紀子、梶岡千聖、木下亜唯、

黒田尚紀、小林祐太、佐々木奈保衣、高橋優花、東前美咲、古川みかの、桝田修史、

松末雪乃、宮本楓、武藤季紗、森芽未、森夕貴奈、矢野智規、山田涼